

鳥唱山千本桜保存会

えほんの木



設立30周年記念誌

烏帽子山千本桜保存会

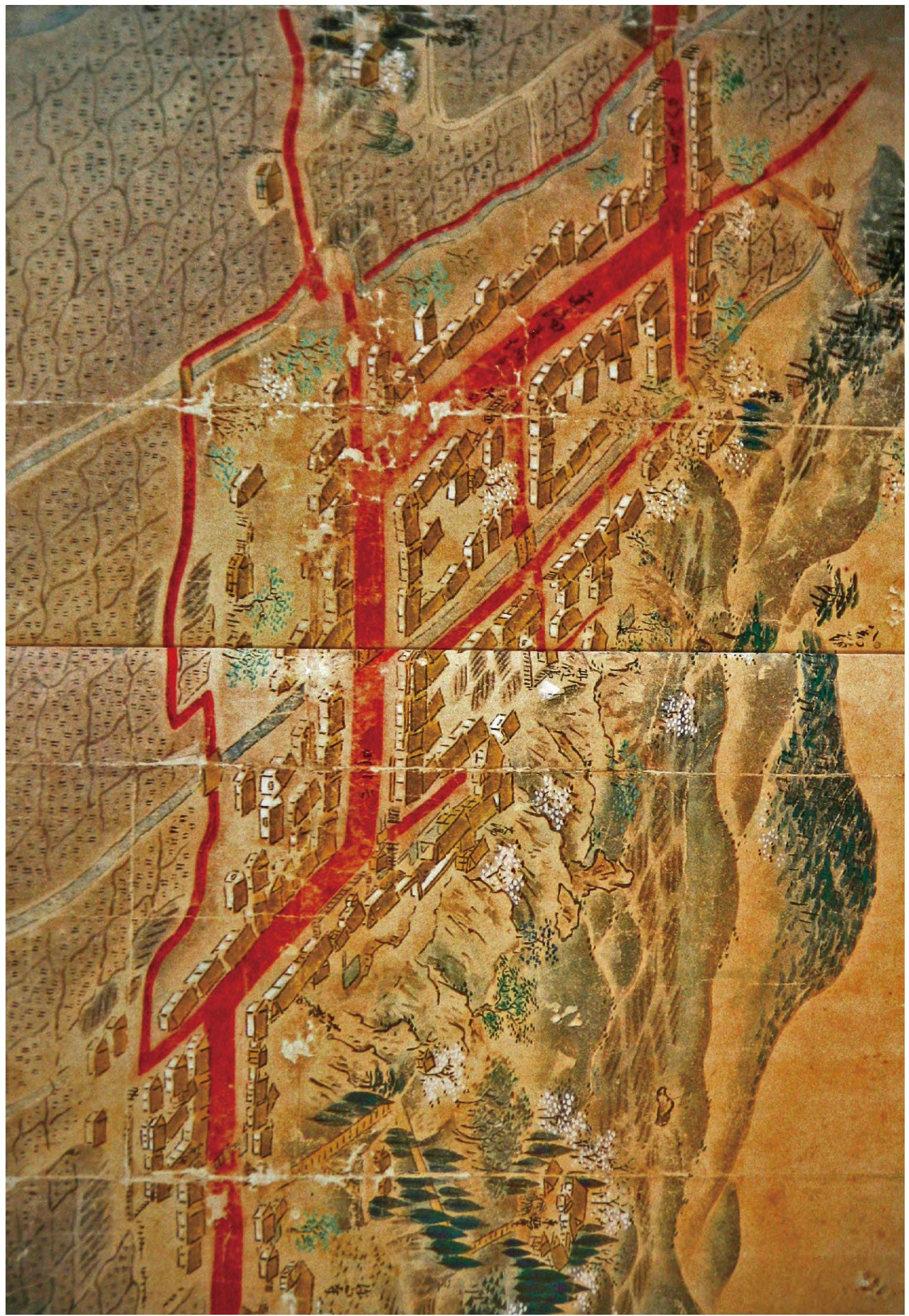
30年のあゆみ

【口絵写真】

解説は本誌46ページを御覧ください。

- 1 享保の絵図（南陽市指定有形文化財）
- 2 明治23年遷座烏帽子山八幡宮全景画（烏帽子山八幡宮所蔵）
- 3 2019年4月改訂「烏帽子山公園愛称木散策マップ」（烏帽子山千本桜保存会監修）





享保の絵図（南陽市指定有形文化財）



明治23年遷座烏帽子山八幡宮全景画（烏帽子山八幡宮所蔵）

明治23年
夏
白雲文庫
作
印

3 西山エドヒガン

③ 高さ／エドヒガンサンクラ
幹周り／2.8m
高さ／1.32m
幹周り／3.0m
高さ／1.32m
エドヒガンサンクラ
高さ／1.32m
幹周り／3.0m
西山はエドヒガンの巨木や紅枝垂れなどが林立して花見客を感じさせてくれるが、その中でもひとときわ見事な花を見せてくれる東屋そばの2本のエドヒガン桜は際立つて見事である。



5・6 夫婦ざくら

⑤ 高さ／エドヒガンサンクラ
幹周り／2.5m
高さ／1.06m
幹周り／2.5m
高さ／1.06m
エドヒガンサンクラ
高さ／1.06m
中の山の忠魂碑の両側に立つメイヨシノと根を下ろしている巨木のメイヨシノは、翁桜と雄桜のようである。



7 臨雲桜

⑥ 高さ／エドヒガンサンクラ
幹周り／3.2m
高さ／1.06m
エドヒガンサンクラ
高さ／3.2m
中の山の忠魂碑の両側に立つメイヨシノと根を下ろしている巨木のメイヨシノは、翁桜と雄桜のようである。

B 菩提寺

菩提寺

菩提寺



駐車場



12 放鳥日白桜



11 鳥居の桜



10 家昌桜

島相子山公園の中心となった石の名を冠して命名。

見は 北斜面の桜

選ばれた事もあります。

「日本最大級のエドヒガン群生地」
ソメイヨシノやシダレザクラ、エドヒガンなど
約一千本のさくらがお迎えします。

烏帽子山公園は置賜地方を一望できる地にあり、四季の景観と眺望を楽しむことができます。

およそ4万坪の広大な敷地には、約4千本の桜が花をつけ、日本さくら名所一〇〇選の地に認定されています。

「全国さくらシンボジウムin南陽」の開催地に

鳥帽子山公園千本桜の楽しみ

1 「日本さくら名所百選」の地

鳥帽子山千本桜は、明治11年(1877年)に地域有志が「湯ノ山公園(遊園地)」を造成し数百本の花木を植栽したのが始まりです。明治19年からは地区民あげで公園づくりが行われました。

2 世界でも珍しい「エドヒガン群生地」

ここでのエドヒガンは145本あり、エドヒガン系シダレザクラ80本を含めると225本も群生しています。エドヒガンは、樹齢が1,000年を超える「長寿のさくら」が有名ですが、このエドヒガンは140年ぐらいで、まだ「少年期」です。これからのエスたちが200本以上群生して、千年先まで楽しむ少年たちです。

3 「康寿橋」「大鳥居」などの明治の建築遺構

「鳥帽子山八幡宮大鳥居(明治36年、一本石大鳥居日本一)」は、名石工吉田善之助(吉田善之助、明治14年南陽市中川ほか)によるものです。また、御神坂途中(康寿橋の脇)には通称「メガネ橋」と呼ばれる石造りのアーチ橋があり、大鳥居を造った名石吉田の弟子の川合兄弟によるものです。大鳥居の注連縄架け替え神事は、満開の桜の中、毎年4月18日に行われます。

4 「全国桜銘木二代目園」もお楽しみください

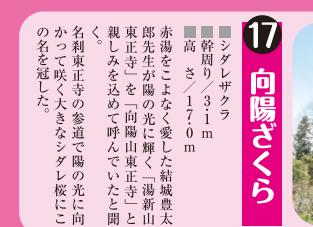
「鳥帽子山千本桜保存会(平成2年設立)」では、全国の名木(二代目)を寄贈いただき、公園の北から西斜面に植栽しました。天然記念物に指定された桜も多く、鳥帽子山公園で「全国さくら名木見物」はいかがでしょうか。



愛称木の多言語案内
(山形県立南陽高校制作)



18 輪廻の桜

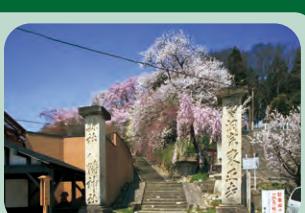


17 向陽ざくら



鳥帽子山八幡宮參集殿東にあり、朝日に映えるダレ桜で、公園の木々の中にひときわ目立つ

G 東正寺山門



F 若松觀音



E 東正寺



明治36年(1903年)完成。柱は一本石で高さ1.075mと石造りで日本一。近代化産業遺産「田橋」と同様、石工の吉田善之助の作です。

D 石の大鳥居

愛称木散策マップ

千本桜愛称木一覧

E 東正寺



1 見返り桜

シダレザクラ
幹周り／1.7 m
高さ／8.3 m
駐車場西端にあり、帰り道に振り返ってみるといつそう感動するシダレ桜。



8 おとぎ桜

エドヒガンサクラ
幹周り／3.3 m
高さ／10.0 m
千本桜保存会が贈った花咲かせんが飾られた花咲かせんは子供も達をおどきの世界に誘ってくれる。



2 全国桜名木 一代目園

全国各地の有名な桜鉢木、古木の苗本を集めた全国桜名木一代目園は、全国各地の著名な桜を愛でることができる。鳥帽子山で日本一周はいかがですか。



9 康寿ざくら

エドヒガンサクラ
幹周り／3.3 m
高さ／16.5 m
石の大鳥居と西山を結ぶ康寿橋を一望できます。



写真右 / 南陽市観光協会

16 烏帽子ざくら

シダレザクラ
幹周り／3.1 m
高さ／19.5 m

15 観音桜

エドヒガンサクラ
幹周り／3.9 m
高さ／19.5 m

14 寺坂紅しだれ

シダレザクラ
幹周り／2.3 m
高さ／6.9 m

公園東側の寺坂は烏帽子山公園の桜である。中で一番早く開花する桜。

13 湯桜

エドヒガンサクラ
幹周り／4.2 m
高さ／14.0 m

公園から温泉街に下りる丹波口階段そばは温泉街を見守るように立っているエドヒガンの巨木。赤湯温泉の繁栄を願っている。



目 次

【口絵】「享保の絵図」

「明治23年遷座当時の鳥帽子山八幡宮全景画」

鳥帽子山公園「愛称木散策マップ」

【挨拶】鳥帽子山千本桜保存会 会長 新山 真弘	1
-------------------------	---

【祝辞】南陽市長 白岩 孝夫	2
----------------	---

【祝辞】山形県議会議員 柴田 正人	3
-------------------	---

【祝辞】置賜さくら会 会長 青木 敏夫	4
---------------------	---

【特別寄稿】「新宮八幡宮碑」に込めた先人の想い

鳥帽子山八幡宮 宮司 新山 宏三	5
------------------	---

【特別寄稿】「国土交通大臣より感謝状」

鳥帽子山千本桜保存会前会長 柴田 正夫	6
---------------------	---

◆写真で見る躍進の10年(平成22年度から令和元年度まで)

◆草創の10年のあゆみ	7
-------------	---

平成2年度から11年度まで(年表)	11
-------------------	----

◆充実の10年のあゆみ

平成12年度から21年度まで(年表)	13
--------------------	----

平成12年度・13年度	15
-------------	----

平成14年度・15年度	16
-------------	----

平成16年度・17年度	17
-------------	----

平成18年度・19年度	18
-------------	----

平成20年度・21年度	19
-------------	----

「全国さくらシンポジウム イン 南陽」	20
---------------------	----

◆躍進の10年のあゆみ

平成22年度(随想 栗野 清)	21
-----------------	----

平成23年度(随想 三森 和裕)	23
------------------	----

平成24年度(随想 石岡 要蔵)	25
------------------	----

平成25年度(随想 加藤 正人)	27
------------------	----

平成26年度(随想 青木 俊介)	29
------------------	----

平成27年度(随想 安孫子 実)	31
------------------	----

平成28年度(随想 濱田まち子)	33
------------------	----

平成29年度(随想 安達 悅子)	35
------------------	----

平成30年度(随想 須藤 恭子)	37
------------------	----

平成31年度・令和元年度(随想 後藤 典昭)	39
------------------------	----

◆資料編

「鳥帽子山とさくら」(設立20周年記念誌より再掲)

(元)日本エッセイストクラブ員 (故)錦 三郎	41
-------------------------	----

「偕楽園記・碑文のあらまし」	42
----------------	----

全国桜名木二代目園リスト	43
--------------	----

「鳥帽子山公園千本桜の楽しみ」(四言語表記)	44
------------------------	----

「口絵」解説	46
--------	----

鳥帽子山公園の古写真	47
------------	----

「南陽市のワシントンさくら」加藤 正人	48
---------------------	----

記念誌や会報に寄稿いただきました方々のご芳名	49
------------------------	----

鳥帽子山千本桜保存会歴代役員一覧	50
------------------	----

鳥帽子山千本桜保存会会則	51
--------------	----

◆編集後記

	52
--	----

桜 ご挨拶



鳥帽子山千本桜保存会

会長 新 山 真 弘

鳥帽子山花見ごとに思うかな

桜植えたるそのかみの人

(鈴木源蔵詠 号宜春)

今年、鳥帽子山千本桜保存会は、設立30年となるひとつの節目を迎えることが出来ました。

鳥帽子山八幡宮が鎮座する鳥帽子山公園は、平成2年に『日本さくら名所100選の地』の指定を受け、現在では日本最大級のエドヒガンの群生地として、置賜さくら回廊の起点として、広く市内外のお客様に親しんでいただいております。

その歴史については、園内に建立された《偕楽園碑》によりますと、『明治11年、同志の者が相計り鳥帽子山に数百本の花木を植え……。これを公園造りの手始めとした。』とあります。以来、悪条件に立ち向かう先人の大変な苦労があって、今の鳥帽子山公園の基礎を成す形へと整備が続けられてきております。

時は流れ平成2年の春、より一層の整備を重ね、さくら名所百選の地に相応しい公園にとの呼びかけで、山川章さんを初代会長とした、鳥帽子山千本桜保存会は設立されました。それからの保存会は市や関係団体、そして保存会の会員等に指導や協力を受け、毎月の定期観察や協働施肥作業・鳥害予防に病虫害防除、そして印刷物の発行や会員の研修と親睦等々の活動を、続けてまいりました。

昨年リニューアルした鳥帽子山公園散策マップの愛称木一覧等は、近年急増の中国や台湾、韓国や英語圏の観桜客に対応、其々の国の言語での表示も入れ、喜んでいただけました。

見応えのある全国桜名木二代目園もより充実して、全国各地の著名な桜を愛でることが出来ます。

そんな折、本保存会には大変嬉しいニュースがありま

した。柴田正夫前会長が、都市緑化功労者の表彰として、国土交通大臣より感謝状の贈呈という大きな栄誉を授かりました。この表彰は、柴田前会長が事務局長と会長を23年間務められ、鳥帽子山公園の桜の管理保存及び桜の街づくりに大きく貢献、保存会の活動を長く牽引された実績が認められたものであります。

当然ですがこの受賞は、設立30周年を迎えた本保存会にとっても花を添える大変名誉な出来事で、これから活動にも大いに励みになる嬉しい報告となりました。

昨年は、南陽高畠ICから山形上山IC間が開通し、東北中央自動車道と山形自動車道、そして東北自動車道と、福島・山形・宮城の3県を結ぶ高速周遊コースが完成し、車の流れは一変しました。また、前にも触れたように、海外からのお客様も急激に増え、地元の人をしても「ここ数十年これ程見事な桜は記憶にない!」と、感激させた千本桜の鳥帽子山公園は、桜まつり期間中の動員数として、過去最高となる15万人超の記録を残しました。

この春は、保存会設立30周年や大臣表彰を記念しての祝賀会を予定しておりましたが、コロナウィルスが日本中で猛威を振るい、赤湯温泉桜まつりも含め、ほとんどのイベントが延期や中止を余儀無くされてしましました。只々残念ですが、今は一日も早い終息を願うばかりです。

私たち保存会は、先人が遺してくれたこの地域の貴重な宝を守り・育て、より充実した形で次の世代に引き継いでいかなければなりません。

『桜は人で咲く』の言葉をかみしめ、大きな区切りになる50周年やその後も親しみ楽しんでいただける鳥帽子山の千本桜であり続けるために桜守の一員としての活動を続けてまいります。これからも皆様の御理解と力強い御支援・御協力をよろしくお願ひいたします。

桜を愛する同志の皆様とのご縁に感謝を込めて…。

祝　辞



南陽市長
白 岩 孝 夫

鳥帽子山千本桜保存会の 設立30周年に寄せて

鳥帽子山千本桜保存会の設立30周年記念誌の発刊に際し、お祝いのご挨拶を申し上げます。

鳥帽子山公園は、明治11年に郷土の発展を願い、石岡與市氏を中心とする16名の地元有志が立ち上がり、桜の植樹と公園の整備に邁進されました。

整備事業が始まつて間もない明治12年と13年には、立て続けに二度の大火に見舞われ、公園を含む赤湯村の広範囲が廃墟と化しましたが、ひるむことなく公園整備を継承し、現在の鳥帽子山公園の礎が築かれたとお聞きしております。

ソメイヨシノやエドヒガン、シダレザクラ等の様々な種類の桜が生育している鳥帽子山公園は、赤湯温泉を眼下にして、桜の大回廊を散策しながら楽しむことができます。

平成2年には、「日本さくら名所100選の地」に選定され、平成6年には「置賜さくら回廊」の南の起点になりました。昨シーズンは15万人を超える観光客が訪れるなど、南陽市最大の桜の名所となっております。

このように鳥帽子山公園の観光資源としての価値の大きさと、訪れてくださる観光客の笑顔を見るにつけ、

140年ほど前に偉業を成し遂げた先人の卓識と不屈の精神に感謝の念に堪えません。

その先人の思いを受け継ぎ、平成2年に会が発足されて以来、日頃より地道に、そして献身的に鳥帽子山千本桜の施肥作業や園内の清掃作業、定期観察会の実施にご尽力を賜り、心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

また、柴田正夫前会長が長年に渡り鳥帽子山千本桜保存会の活躍を牽引し、千本桜を全国にPRされた功績により、昨年、都市緑化功労者国土交通大臣表彰を受賞されました。誠におめでとうございます。今後とも健康にご留意いただき、保存会の精神的支柱としてご指導いただきますようお願いいたします。

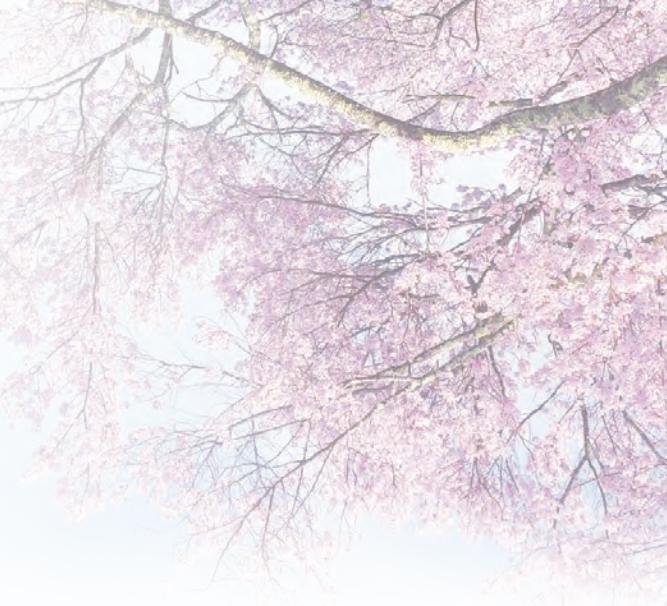
結びに、市井の人々の思いを結集し、鳥帽子山公園を整備した明治の先人の功績を忘れることなく、素晴らしい公園を後世に引き継いでいくよう、貴会のより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、貴会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げまして、お祝いの言葉と致します。



祝　辞



山形県議会議員
柴田正人



皆様の愛情が桜の力

鳥帽子山千本桜保存会設立30周年記念誌の発刊に際し、心からお祝いを申し上げます。

静かに春を待つ桜は、時を待つ人々の心を映しながら、一瞬の休みもなく力をたくわえている。たくわえられた力があるから、見事な花を咲かせ、人々を魅了する。

2019年平成最後の千本桜は、「さくら良し、天気良し、笑顔良し」の本当に素晴らしい桜でした。

桜が力をたくわえるとき、人々の愛情深い支えは、さらに力を与える。

平成2年4月に約90名のさくら愛好者の方々により発足された鳥帽子山千本桜保存会の皆様は、先人たちが幾多の困難を乗り越えて遺してくれた、この歴史ある地域の宝を次の世代に引き継いでいくために、公園内の清掃、桜苗のプレゼント活動、病害虫防除、鳥食害防除、施肥作業など、愛情を込めて守り、育てる様々な活動を続けてこられました。ここに改めて、大変なご苦労とご尽力に心からの敬意と深く感謝を申し上げます。

樹齢130年のエドヒガン、ソメイヨシノ、シダレ桜など、25種類約千本が咲き誇る鳥帽子山は、平成2年に財団法人日本さくらの会より、「日本のさくら名所100選の地」として認定されてから、貴会とともに歩み、現在では、名実とも桜の名所として「置賜さくら回廊」の

拠点となり、地域を見守ってきた長井市の伊佐沢の久保桜、草岡の大明神桜、白鷹町の薬師桜などの古木名木とともに、古典桜の里として多くの観光客が訪っています。最近では、貴会の周辺地域一帯の周遊と行政との連携、点から線へ、線から面への活動の思いは、様々な連携を生み出し、平成19年からは置賜発信の「やまがた花回廊キャンペーン」、さらには平成29年から山形県全体へ広がった「山形日和。花回廊キャンペーン」にまで広がりを見せてています。

また、愛称木をはじめ、鳥帽子山をまるごとチェックできる「鳥帽子山公園愛称木散策マップ」もインバウンド対応として多言語化やQRコード化などで改訂され、さらに地域の担い手の育成として、日本有数のエドヒガンの群生地であることの広報も兼ね、地元南陽高校生と識別シールを貼る協同学習にも取り組まれていることには、時代を切り開き、引き継いでいく貴会の強い思いを感じます。

結びになりますが、私もこの歴史ある鳥帽子山千本桜を守り、育て、後世に引き継いでいくために、微力を尽くして参ることをお誓いするとともに、今後益々の保存会のご繁栄と会員皆様のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせて頂きます。

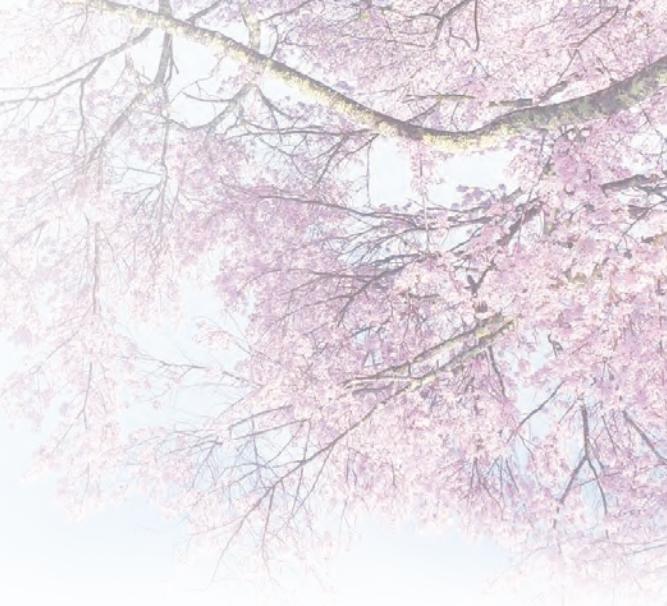


祝　辞



置賜さくら会

会長 青木 敏夫



誇れる桜と保存会

益々のご発展を

鳥帽子山千本桜保存会設立30周年、誠におめでとうございます。

心よりお祝い申し上げます。記念誌の発刊に際し、お祝いのご挨拶を申し上げます。又、平成2年の結成以来、携わられてこられた多くの皆様方にも厚く敬意を表するところであります。

鳥帽子山千本桜は言うまでもなく置賜桜回廊への玄関口として、県内外から訪れる観桜客をお迎えする大きな役割を担う場所でもあります。この役割を充分に果たされておられることに置賜さくら会としても感謝と敬意を申し上げるものであります。

桜の歴史をたどってみると、古くは桜は穀物の神が宿る稲作神事が関連していたとされ、万葉集には広く桜が登場し奈良時代の和歌では花といえば梅を指していたが、文化の発達とともに桜の人気が高まり、平安時代では花とは桜を指すようになったと言われています。

その後、桜の宴があちこちで開かれることとなり、どんどん桜が植えられてきたと伝えられています。

特に桜を愛していた西行法師が吉野の山を見て「願わくば桜の下にて春死なん そのきさらぎの望月のころ」の歌は有名であります。桜は昔から春の息吹を迎える使者の花として、多くの人々から愛され喜ばれてきました。

鳥帽子山には明治23年に「鳥帽子山八幡宮」が遷座され、古き時代からの歴史ある千本桜となっている桜であり公園もあります。特に登り口の石段や石造りの鳥居は見事で、観桜客を迎えるには堂々たる風格を感じます。広き面積を有する鳥帽子山の管理や整備は大変なことだったろうと推測されますが、これまでの30年の流れの中で、保存会としても色々な議論や葛藤があり

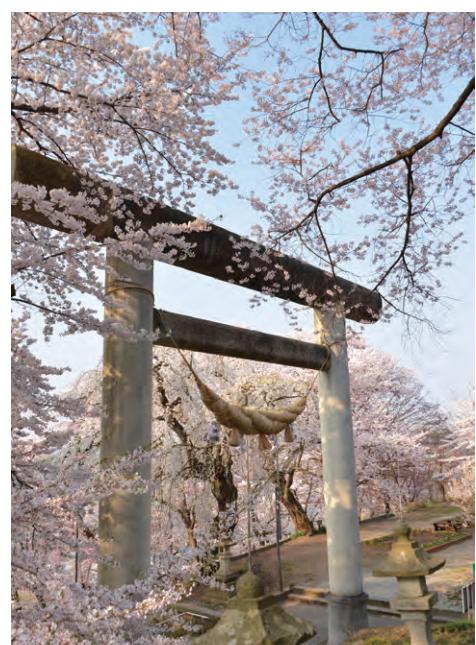
現在に至ってきたのだと思います。

現在は毎月第1日曜日を見回りや点検観察日と定めるなど、管理体制や協力体制をしっかりと確立されておられるることは、置賜さくら会としても見習うものがあると思っております。

更には、日本のさくら名所100選の地に指定されていることから、常に気を抜けないところもあり、その舵取りも大変なことと存じます。

しかし、保存会活動として3本の柱を、しっかりと確立され地についた活動となっておられることも、他の模範になっていることだと感じているところであります。

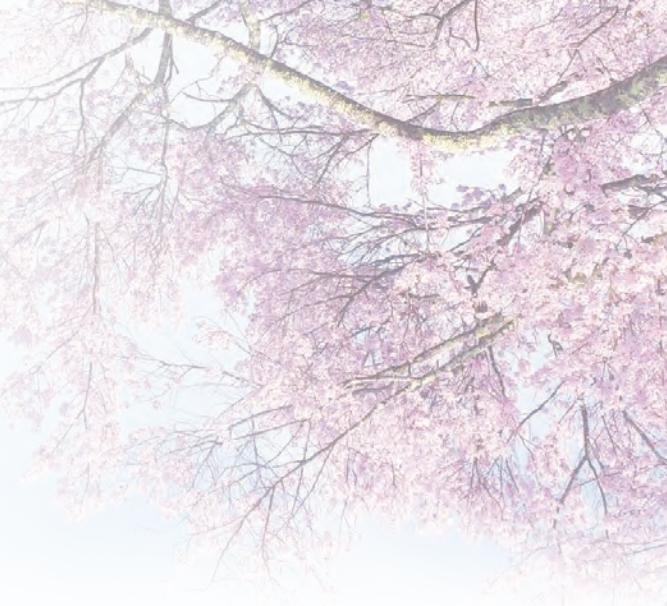
今後とも鳥帽子山千本桜は、置賜さくら会、そして置賜さくら回廊の顔として、看板として益々発展されることをご祈念申し上げ、あいさつといたします。



✿特別寄稿



鳥帽子山八幡宮
宮司 新 山 宏 三



「新嘗八幡宮碑」に込めた先人の想い

鳥帽子山八幡宮の社殿東側、參集殿との間には、「新嘗八幡宮碑」の石碑が建ち、当時の経緯を知るうえで大変貴重な資料となっています。

この碑文は漢文により記され、赤湯字八幡沢（赤湯北町）鎮座八幡神社より移転遷座、風光明媚な神域公園の造成という大事業の顛末と不朽の業績のあらましを後世に伝えるものであります。

杉孫七郎の篆額（てんがく）、金井之恭（かないやすゆき）の撰文、刻者は宮亀年。明治24年建立。

ここに事業概要と当時の情景を表す内容をご紹介します。

【碑文概要】

人々は神の加護のもとで豊かに暮らすことができている。八幡宮の新嘗は敬神の誠を表すものであり、且つ、赤湯のためになる。温泉は発展し、四方の地から浴客が年中絶えなくなる。この計画は相応しい場所に新しく社を建立してお祀りするだけでなく、遊園地を副えた壮大なものである。

遷宮当時の八幡神社神域は広く3,000歩^(※)、本殿は後ろにあり、拝殿は前にあって、社務所と絵馬殿は左右に相対している。登り道は、どこまでも続く石造りの階段があり、遠くから眺めた社は城郭のようで、その美しさに驚嘆した。規模は壮大で、まさに至れり尽くせりといるべきである。遠く望めば、不忘の秀峰泰然と松江の流れは静かに眠っているようである。遠い村や近くの集落は見え隠れし散在している。じつと見つめれば千里の風景は絵画のようである。また明草が繁り、嘉木の数千本か分からぬ。桜や梅が最も多く茂っている。嵐峠の艶やかな月は、水面に浮かんだ姿が最も美しく

座して観るべきである。試しに登れば塵粉は立ち消え、良いことも悪いことも両方忘れる。その楽しさは洋々無窮である。故に偕楽園と命名した。年中遊覧の処となり、地域の人やかんざしを挿した人達が遊び、着飾った婦人も多く集まり、日傘や足音も年中絶えることが無い。思うにこの地では初めてである。

以上が碑文の概要の一部であります。

【今、そしてこれから】

現在、山形県内でも誇る日本さくら名所100選の地に選ばれた鳥帽子山公園は、市民・千本桜保存会と行政の活動により、木々の管理育成、観光客への公園紹介誘導、公園整備計画等が行われ、南陽市を代表する観光名所となりました。

東北中央自動車道福島米沢間の高速道路が開通し、桜の時期には15万人を超える観光客が訪れる程になっており、今や南陽市の宝であります。先人がこの大事業を興し、多くの協力を得ながら苦難を乗り越え目標を成し遂げてきた、鳥帽子山の原点を忘れてはなりません。

将来の発展を見据えて成し遂げた事業が、今の時代において鳥帽子山が赤湯のみならず南陽市を代表する崇敬・観光の起点として多くの人々を楽しませ喜ばせてくれている事に感謝の心を捧げ、先人が託した想いをこの先に紡いでいく事は、今を生きる私たちの使命であります。

さらなる繁栄のために、官民一体となり、全ての人々が高く誇りを持ち、鳥帽子山の充実と地域の発展に気持ちを寄せていただくことを願っております。

※3万坪

特別寄稿



前会長 柴田正夫

国土交通大臣より感謝状

令和元年7月、市の担当係長より「令和元年度都市緑化功労者として国土交通大臣表彰の受賞が決まった」と、県より通知を受けたとの連絡があり唐突な事だったので驚いた。

表彰式は10月25日に虎ノ門の日本消防会館で「広げよう育てようみどりの都市全国大会」の中で行われた。表彰基準は『緑地協定の締結及び都市緑化の推進に関する普及啓発活動に顕著な功績のあったもの』に該当したものと思う。受賞者は全国から13名、東北から2名だった。

思い起こしてみると山川前会長より会の目的【先人が遺してくれた貴重な千本桜をより良い姿で後世に引き継いでいく】という意思を熱く語られ、要請を受けて入会し、事務局長を引き受けたのは、定年退職数か月前のことだった。仲間入りさせていただいたが、桜や公園のことが皆目わからず迷惑をかけてしまったことが思い出される。また教職にあった人たちとは、異質に思える大人の仲間でした。また置賜さくら会（平成6年発会）の会長会に事務局長として参加させていただき、桜に対しての愛着心、専門的な仕事や知識は次元の違いすら感じられた。

當時の方々に深い敬意を払いながら足跡を辿ってみた。『平成2年度』設立総会で山川章氏を会長に推戴、さくらパンフレット作製、以後毎年施肥作業。『平成3年度』日本のさくら名所百選の記念碑建立、会報第一号発行。『平成4年度』研修視察（角館、弘前、盛岡）。『平成5年度』会長、日本さくらの会「さくら功労賞」受賞、南陽さくらの日提唱、さくら苗木プレゼント（以後毎年）。『平成6年度』会長に山川章氏を推戴し置賜さくら会発足。『平成7年度』男声合唱団さくらありがとうパークコンサート（以後継続）。『平成8年度』会員研修（会津五桜）輪廻のさくら命名、桜古木腐食部分カット処理。『平成9年度』山川章会長緑化功労章受賞。『平成10年』山川会長、日本さくらの会感謝

状受賞、さくら二代目園見本園看板設置。『平成11年度』緑化功労団体として知事表彰。山川章会長急逝。『平成12年度』柴田正夫が会長に就任。保存会10周年記念式典記念誌発行。『平成13年度』千本桜看板設置。『平成14年度』知事より感謝状受賞。『平成16年度』置賜さくら会10周年記念式典。『平成17年度』鳥帽子山八幡宮の新社殿竣工。有機肥料散布（消防団第七分団）『平成18年度』会員研修（北上展勝地）。『平成21年度』全国さくらシンポジウムイン南陽開催（参加者700人を超し過去最大）大好評でした。『平成25年度』施肥作業に赤湯小学校四年生の体験学習を組み入れ、以後公園のさくら施肥作業を継続していく。その他事業は変わりなく実施していました。

いろいろな事業や研修、2つの会長の兼務で置賜さくら会の事業では、宿泊を伴った研修があり、大変勉強になったことが多くありました。その土地の桜の樹木医や管理者の講演や講師を囲んでの研修など、角館のさくらをはじめ北斗市の山高神代桜、岐阜の薄墨桜、青森の弘前公園のさくら、盛岡の石割桜など花が咲き終わつて落ち着いたころに実施した。中でも思い出に残るのは【全国さくらシンポジウムイン南陽】の開催でした。平成19年長野県飯田市でひらかれたシンポジウムイン飯田の活動報告で、鳥帽子山のさくらと置賜さくら会のさくらを映像で紹介したとき、会場にどよめきが生じ、多くの拍手を頂いた。それは見事に咲いている鳥帽子山の千本桜だった。懇親会で「是非行ってみたい」との声が多く聞かれ、平成20年に日本花の会の事務局長さんから南陽市開催の要請を受けて、市長と相談の結果「市のためになるのならやろう」となり平成21年4月に当地で開催。事務局となった市の観光課の皆さん、赤湯の皆さんや旅館の女将さん方にお世話になりました。お陰様を以て大きな成果を上げて終了できました。

最後に、鳥帽子山千本桜保存会の更なる発展のために若い人たちの入会とご協力を頂くよう祈念いたします。

写真で見る躍進の10年(平成22年度から令和元年度まで)



「桜の日」桜の苗木プレゼント 平成22年4月20日



豪雪から桜を
守る!
平成24年3月

写真で見る躍進の10年(平成22年度から令和元年度まで)



総会、大観桜会(八幡宮参集殿) 平成24年4月



桜まつり、募金活動、マップ配布



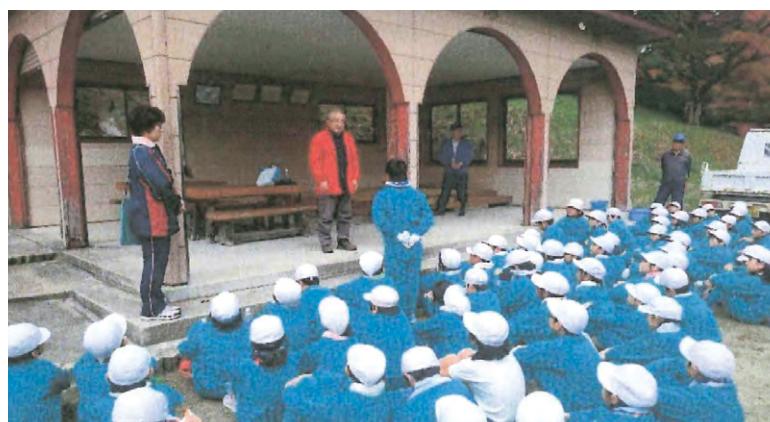
「桜の日」桜の苗木プレゼント 平成22年4月20日



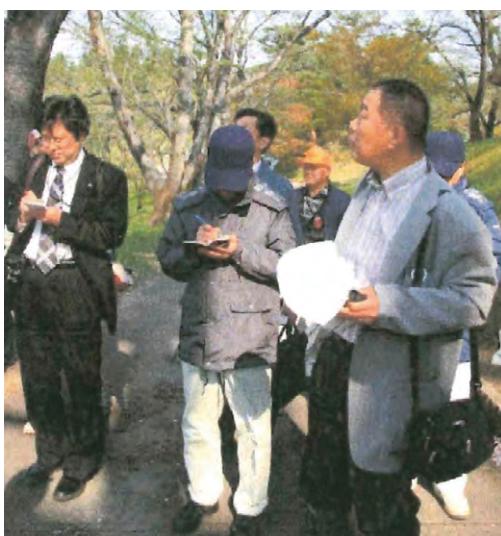
第1回観察会 平成25年5月



国際ソロプロチミスト表彰 平成25年6月



赤小4年生協働施肥作業(第3回) 平成27年10月20日



樹勢回復調査 平成25年5月





施肥協働作業(保存会は毎年参加) 平成27年6月

観光客様寄稿 山田春子様撮影 31ページに本文



総会、観桜会 平成27年4月



施肥協働作業(保存会は毎年参加)
平成28年7月



研修視察旅行 船岡城址公園と白石川堤一目千本桜
平成29年4月

前年度は開花時期が合わず中止となり、今年再挑戦。OKでした!

国際ソロップチミスト日本財団から
「社会ボランティア賞」を受賞
平成25年11月、新潟市
(本文は27ページ)

写真で見る躍進の10年(平成22年度から令和元年度まで)



2代目園の看板付け替え 平成30年4月



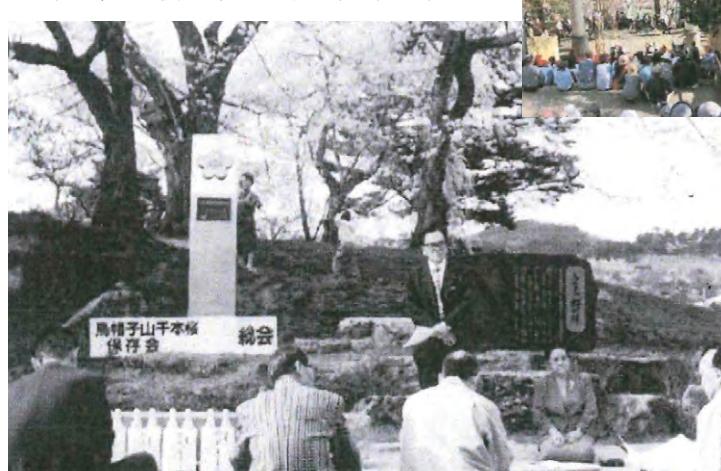
4月20日「桜の日」恒例の苗木プレゼント(左30年・右31年)

研修旅行会津方面「薄墨桜(伊佐須美神社)」
平成30年4月(本文は36ページ)



恒例となった「協働施肥作業」「輪廻の桜」の保護柵作り

研修旅行「三春の滝桜.霞が城.全国桜シンポ」
20年ぶりの「桜かくしの雪」、平成31年4月



平成2年4月25日鳥帽子山千本桜保存会設立総会
初代会長 故 山川章氏



赤湯小学校3年生106名が桜に感謝の施肥
赤中生が「小学校で肥料をやりました」と募金をしてくれました

平成2年度から11年度まで

草創の10年のあゆみ



草創の10年のあゆみ～平成2年度から11年度まで(年表)～

平成元年度・2年度

◆記事

地域の人々の心に生き続けて(山川章会長)

日本さくら名所百選記念碑を建立

◆主な活動

元年4月 烏帽子山千本桜保存会設立準備

2年3月 烏帽子山公園「日本さくら名所100選の地」に指定

4月 設立総会・観桜会

6月 桜パンフレット作製

7月 早朝施肥作業

グリーンパイル240本打ち込み

3年2月 「日本のさくら名所百選記念碑」、「桜句碑」建設

事業の推進

3月 剪定枝処分

*平成3年度から、赤湯温泉さくら祭り全国俳句大会の開催が決定

平成3年度・4年度

◆記事

烏帽子山とさくら(錦三郎氏)

◆主な活動

3年4月 日本のさくら名所百選指定

記念碑建設・除幕式

4月 総会・観桜会

6月 中国南陽市訪日団記念植樹

7月 施肥作業

4年2月 消毒作業協力

3月 保存会シンボルキャラクター決定

3月 「ウソ」食害防除剤散布協力

3月 名木2代目園に淡墨桜等植栽

3月 会報第1号発行 800部

4月 桜視察研修(角館・弘前公園・盛岡石割桜)

4月 総会・観桜会

6月 施肥作業

2月 「ウソ」食害防除剤散布協力

3月 桜徒長枝剪定協力・配管工事支援

平成5年度・6年度

◆記事

日本さくら会から「さくら功労賞」を受賞

第1回南陽さくらの日の行事／さくらの苗木プレゼント

「置賜さくら会」を設立／相互協力でさくらを守る

◆主な活動

5年4月 日本のさくら会より

「さくら功労賞」受賞

4月 4月20日「南陽さくらの日」提唱、

制定記念・さくら苗木プレゼント30本

4月 総会・観桜会

5月 烏帽子山公園に桜増植

6月 中国南陽市訪日団記念植樹協力

施肥作業

9月 会報2号発行

10月 「日本さくらの会」加入

11月 皇太子御成婚記念桜植樹

12月 農林水産省森林総合研究所及び

日本さくらの会より視察

12月 公園古木手入れ

6年2月 「ウソ」食害防除剤散布協力

4月 「日本さくら見本園」造成(25品種50本植栽)

4月 桜視察研修「日本の桜3大名木」

(神代桜・淡墨桜・兼六園、1泊2日)

4月 桜の苗木プレゼント(30本)

6月 施肥作業

9月 「置賜さくら会」設立

9月 会報3号発行

10月 公園古木手入れ、消毒作業

10月 赤湯中学校ヘワシントン桜(2代目)5本寄贈

10月 盛岡石割桜2代目里帰り

7年1・3月 「ウソ」食害防除剤散布協力

2月 置賜さくら回廊マップ作製

平成7年度・8年度

◆記事

千本桜に感謝するパークコンサート

古木の保護対策 不透水性防護材を塗装

◆主な活動

7年4月 公園桜植込み

(南陽東ロータリークラブより寄贈)

4月 2代目園に石割桜・薬師桜・釜の越桜・弘前公園の枝垂桜を植栽

4月 日本の桜見本園桜補植

平成12年度から21年度まで

充実の10年のあゆみ



充実の10年のあゆみ

平成12年度・13年度

◆記事

設立10周年記念式典(平成12年度)

偕楽園記・新宮八幡宮碑の解説

置賜さくら回廊観光会議設立される

◆主な活動

- 12年 4月 春のクリーン作戦協力
4月 桜苗木プレゼント(30本)
4月 設立十周年記念式典・祝賀会(南陽市民会館)
記念誌発行250部
6月 パークコンサート・施肥作業
6月 置賜さくら会総会(竹屋旅館)
9月 烏帽子山公園造成記念碑
「偕楽園記」碑文解説作業
10月 桜保護管理研修会(烏帽子山公園・置賜さくら会と共催)講師 黒坂登氏(角館町樹木医)
12月 桜名木2代目園移植11本

- 13年2・3月 消毒作業
3月 2代目放鳥目白桜指定(樹齢120年、エドヒガン系枝垂れ桜)案内板設置
4月 千本桜看板設置
4月 桜苗木プレゼント(30本)
4月 総会・観桜会
5月 パークコンサート
7月 置賜さくら会総会(白鷹町)
11月 秋のクリーン作戦協力

- 14年 1月 置賜さくら回廊・観光推進会議設立
2月 食害防除剤散布
3月 整枝・古木雨水防剤充填作業
3月 日本さくら祭中央大会参加(東京憲政会館)、多摩森林科学園視察(矢萩副会長・安部事務局長)

平成14年度・15年度

◆記事

山形県知事より感謝状(地域環境緑化)

台湾との交流・訪台(栃木・南東北国際観光協議会主催)

◆主な活動

- 14年 4月 公園桜整枝作業
4月 春のクリーン作戦参加
4月 桜苗木プレゼント(30本)

- 4月 桜見本園捕植
4月 総会・観桜会
5月 パークコンサート
5月 山形県緑化功劳賞受賞(県植樹祭 金山町)
7月 置賜さくら会総会・研修会(秋田県角館町)
10月 秋の施肥・消毒作業
15年2月 病害虫防除作業
2月 山形県台灣ミッション派遣(柴田会長セミナーで講演)
3月 ウソの食害防止防除
3月 置賜さくら会研修会参加「人間と桜」宗像俊彦氏
4月 春のクリーン作戦参
4月 桜苗木プレゼント(30本)
4月 総会・観桜会
4月 テングス病枝除去作業
5月 パークコンサート・施肥作業
7月 置賜さくら会総会(長井市)
11月 秋の施肥作業
16年1月 ウソの花芽食害防除
2月 病害虫防除
3月 整枝・剪定作業

平成16年度・17年度

◆記事

設立15周年を迎えて

置賜さくら会設立10周年～総会・記念式典開催～
新社殿の竣工を受けて～復活した研修旅行～
人目千本桜と船岡城址公園巡り

◆主な活動

- 16年4月 春のクリーン作戦参加
4月 桜苗木プレゼント(30本)
4月 総会・観桜会
5月 パークコンサート・施肥作業
7月 置賜さくら会総会
千本桜保存会設立15周年記念式典・祝賀会
(ハイジアパーク南陽)
桜管理現地指導(日本さくらの会浅田信行氏)
11月 春のクリーン作戦協力・秋の施肥作業と消毒
11月 大規模整枝剪定作業(県・市桜の名所整備事業)
17年 2月 病害虫防除作業
3月 ウソの花芽食害防除作業
4月 春のクリーン作戦参加

充実の10年のあゆみ

- 4月 総会・観桜会
4月 桜苗木プレゼント (30本)
4月 研修旅行(15名参加) (宮城県柴田町船岡城址公園)
5月 パークコンサート・施肥作業
7月 置賜さくら会総会 (白鷹町)
10月 置賜さくら会研修旅行参加 (福島県三春の滝桜)
11月 秋のクリーン作戦協力
11月 秋の施肥作業
消防団第七分団協力
18年 1月 病害虫防除作業・ウソ花芽食害防除 (忌避剤ペフラン)
2月 ウソの花芽食害防除作業 (硫黄合剤・ペフラン)

平成18年度・19年度

◆記事

船上から花見～研修旅行「北上展勝地」～
南陽市・保存会・地域住民協働の桜管理育成作業

◆主な活動

- 18年 4月 春のクリーン作戦参加
4月 桜苗木プレゼント (30本)
4月 総会・観桜会
4月 研修旅行 (北上市)
5月 パークコンサート・施肥作業
6月 置賜さくら会総会 (長井市)
9月 2代目滝桜移植作業
11月 秋のクリーン作戦協力
11月 秋の施肥作業・消防団第7分団協力
11月 秋の消毒 (コスカシバ防除)
19年 1月 ウソの花芽食害防除作業 (忌避剤ペフラン)
2月 同 (硫黄合剤・ペフラン)
4月 春のクリーン作戦参加
4月 「全国さくらシンポジウムイン飯田」参加派遣
(柴田会長・安部副会長)
4月 研修視察旅行 (25名参加、日和山公園・鶴岡公園)
4月 総会・観桜会
4月 桜苗木プレゼント (30本)
5月 パークコンサート・施肥作業
6月 置賜さくら会総会・研修視察 (山梨県・山高神代桜)
7月 樹勢回復協働作業 (南陽市・建設業者・造園業者)
9月 徒長枝剪定作業
11月 秋のクリーン作戦協力
11月 白鷹景観フォーラム参加

- 11月 秋の施肥作業 (消防団第七分団協力)
11月 秋の消毒 (コスカシバ防除)
20年1月 ウソの花芽食害防除作業
2月 (忌避剤ペフラン)

平成20年度・21年度

◆記事

- 親しみを込めて命名 桜木に愛称
「偕楽園之碑」案内板設置
「全国さくらシンポジウムイン南陽」開催記念植樹
愛称木散策マップが完成

◆主な活動

- 20年4月 春のクリーン作戦参加
4月 桜苗木プレゼント (30本)
4月 研修視察旅行 (21名参加、新潟県五泉市)
4月 総会・観桜会 (八幡宮参集殿)
4月 「全国さくらシンポジウムイン北見」 (柴田会長参加)
5月 パークコンサート・施肥作業
6月 置賜さくら会総会 (ハイジアパーク)
7月 樹勢回復協働作業
7月 「全国さくらシンポジウムイン南陽」実行委員会設立総会
10月 康寿橋手すり塗装
10月 徒長枝剪定、愛称木募集開始
11月 白鷹古典桜の里研修会参加
11月 冬の消毒 (硫黄合剤)
21年 1月 松くい虫対策防除
3月 愛称木表示板設置
3月 整枝・剪定作業
4月 春のクリーン作戦参加
4月 桜苗木プレゼント (30本)
4月 「全国さくらシンポジウムイン南陽」開催記念植樹
4月 総会・観桜会 (八幡宮参集殿)
5月 パークコンサート・施肥作業
6月 置賜さくら会総会 (白鷹町)
6月 樹勢回復協働作業
7月 美しい山形・最上川フォーラムより補助金決定
7月 「全国さくらシンポジウムイン南陽」総括実行委員会
11月 造園組合連合会研修会参加
22年2月 ウソの花芽食害防除作業
3月 烏帽子山公園案内マップ完成
3月 設立20周年記念誌発行 (250部)

平成12年度

◆設立10周年記念式典

4月23日、例年ない開花遅れで、ようやくほころび始めた鳥帽子山の桜を窓外に見ながら、本会創立10周年記念式典が市民会館で挙行されました。

10年の節目に桜への思いを皆で新たにし、本会の未来を語り合おうという故山川前会長の遺志を受け、10周年記念事業の一環として挙行されました。

晴れやかな桜日和となり15名のご来賓のご出席をいただき、40余名の会員が出席、故前会長への黙祷を捧げ、10年間の歩みを確かめ、意を新たにしました。式典終了後、祝賀観桜会へ移行し、故前会長を偲びながら、将来の千本桜への夢を語り合いました。

式典に先立ち10年の歩みをきちんとした形で残しておこうと「設立10周年記念誌」を発行しました。鳥帽子山造成、桜植栽120年の年でもあり、当保存会の確実な足跡として残っていくものです。(会報第8号より)



平成13年度

◆置賜さくら回廊 観光推進会議設立さる

置賜さくら会は、平成6年に発足し桜保存育成の情報交換や会員相互の交流の中で、マップ作成などにも取り組んでいましたが、数年来桜保存会だけのまとまりでは観光的な展開に限界があること、各保存会の基本的な目的である“桜の保存”に立ち返って力を入れていくべきとの話が出されていました。

9月2日に、置賜さくら会の主催で、さくら回廊を構成している長井市、南陽市、白鷹町の行政と観光協会、赤

湯温泉旅館協同組合、それに山形県置賜総合支庁も交え、合同懇談会が開かれました。

この中で、さくら回廊の観光的な展開を一層推進するため、新しい組織づくりを進めることが話し合われました。



第1回の組織づくり準備会が9月12日に開かれ、数回の準備会に於いて、平成14年1月18日に、新しい組織“置賜さくら回廊観光推進会議”が設立されました。推進会議の構成は、長井市、南陽市、白鷹町2市1町と山形県、2市1町の観光協会、置賜さくら会、赤湯温泉旅館協同組合を中心的な会員とし、他に民間の協賛会員を募って構成されています。この推進会議の基本的な目的は、桜の保存管理などを支援しながら、観光的展開を拡充して地域振興を目的とするものです。

平成14年の事業として、さくら回廊マップの増刷、花のやまがた観光キャンペーンと連動した置賜さくら回廊キャンペーンに取り組むこととなりました。

このキャンペーンの柱は

1. 夜桜ツアーリー (さくら回廊のライトアップスポット巡りと地域伝道芸能のミニ公演)
2. ふるさとお茶処開設 (観光案内や湯茶接待と地域物産販売)
3. まるごとウォッチング (ウォーキングと写真、俳句、絵画の作品集) (会報第9号より)



充実の10年のあゆみ

平成14年度

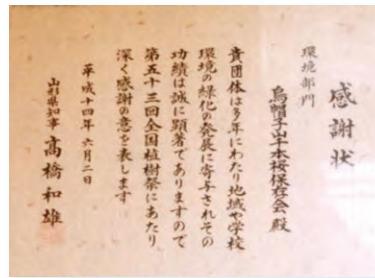
◆山形県知事より感謝状

「地域環境の緑化の発展に寄与した」との功績により、鳥帽子山千本桜保存会が表彰を受けました。

平成14年6月2日

日、金山町で行われた第53回全国植樹祭で、天皇皇后両陛下ご臨席の下、柴田会長と浅野副会長が出席し、県知事より感謝状をいただきました。

平成5年の(財)日本さくらの会「さくら功労章」に次ぐ2度目の受彰となり、誇りと自信をもってこれからも千本桜の愛護に努めたいものである。(会報第10号より)



◆～桜がともつ～ 台湾との交流

平成15年2月12日～16日、台湾のテーマパーク「九族文化村」等の招請を受けて、栃木・南東北国際観光テーマ地区推進協議会主催の台湾ミッション派遣が行われ、山形県代表の一員として、柴田会長が参加しました。南陽市からは、他に本会顧問の石川観光協会会长、同須藤赤湯温泉旅館組合長、会員の歌丸升形屋旅館主が参加しました。

観光セミナー、交流会表敬訪問、座談会など多忙なスケジュールの中で15日に、200人余の聴衆を前に「日本人と桜」をテーマに柴田会長が講演しました。

この訪台は、昨年4月、「九族文化村」の黄瑞奇支配人ほか1行7名が置賜さくら回廊夜桜ツアーに参加した縁で実現しました。

「九族文化村」は台湾の9つの民族の文化を核にしたテーマパークで、現在2,500本の桜が植えられているが、将来は5万本桜にして、台湾の名所にしようと取り組まれているとのことです。桜による国際的な民間交流の貴重な訪台でした。(会報第10号より)

平成15年度

◆さくら苗木プレゼント ～例年より早く実施～

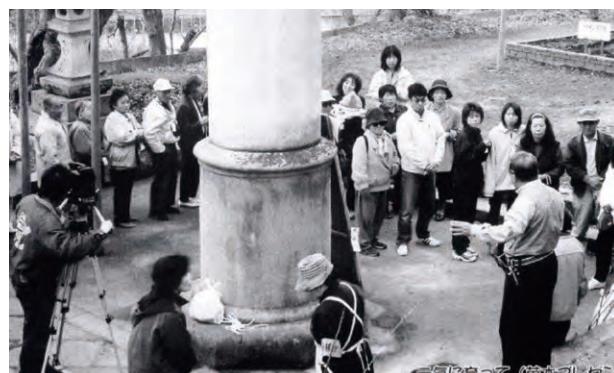
平成15年度の「さくら苗木プレゼント」は例年より1週間早い4月13日に行われました。

これは、例年になく温和な気候でさくらの葉が萌えはじめ、なるべく早い定植が求められていたためです。

南陽市報でお知らせしたためでしょうか、当日は早くから大勢の方が集まり、着順カードがすぐになくなってしまいました。

はじめに柴田会長が、プレゼントの意義や、苗木の写真を提示しながら挨拶。早速、桜苗木プレゼントを行いました。一番人気は、紅色をした八重桜の「関山」で、「オオヤマザクラ」「染井吉野」の順でした。集まつた方々は、南陽市民ばかりでなく、運のよい観光客もおられて、よい記念になったと喜んでおられました。

(会報第11号より)



平成16年度

◆設立15周年を迎えて

会長 柴田 正夫

本会設立10周年記念誌に、発足当時の様子が『苦労に苦労を重ねながら築いた鳥帽子山公園。しかし、千本桜は樹齢すでに100年を越え、管理も手薄なことから樹勢も衰え枯死寸前のものの見受けられるようになった』

『日本さくら名所100選の地選定を機に保存会設立の機運が高まり、翌平成2年4月に設立。初代会長に山川章氏を選出した』とある。

発足以来精力的に事業を展開し、施肥作業や鳥害虫害防除剤散布、名木2代目園・見本園の完成、さくらマップ発行、記念碑や句碑の建立など桜名所として充実が図られ、観桜客が飛躍的に増加してきた。

今、本会は都市整備課と力を合わせ、公園の整美や樹木の整枝剪定、防除剤の散布、移植、支柱補強、有機肥料施肥等の事業を行っている。本会設立15周年を迎えて、本会の目的『先人が残してくれた貴重な千本桜を守り、より良い姿で後世に引き継いでいく』ことを深化し、桜の保護育成と愛護運動を推進していく。そして、会員の輪をひろげ、本会の更なる活性化と充実発展を期したいと思う。(会報12号より)



◆置賜さくら会設立10周年 ～総会と記念式典開催～

平成6年に設立された置賜さくら会が十周年を迎えました。平成16年度総会が7月8日にハイジアパーク南陽で開かれ、引き続き10周年記念行事が行われました。

記念行事は、日本さくらの会事務局の浅田信行氏(樹木医)による「桜古木の保存・育成について」の記念講演と、記念式典と祝賀会が行われました。これに先立つて、10周年記念誌も発刊され、10年間の歩みと、地域の大切な資源としてのさくら回廊の保存活動の継続があらためて確認されました。(会報第12号より抜粋)

平成17年度

◆新社殿の竣工を受けて

鳥帽子山八幡宮 宮司 新山 宏三

平成14年7月8日未明、唐突にも社殿内から不審火として出火、以来早まる3年9ヶ月が経ちました。その間、氏子崇敬者が一丸となり、910余年の歴史と先人の英知が結集され苦難を乗り越えて建立された御社殿を、1日も早く復興致せねばと、平成15年5月、赤湯全地区の代表が集い建設委員会が発足されました。

会長を中心に度重なる会議の結果、神社復興の固い決意のもと御社殿造営事業を進めるにいたりました。

「設計・施工は地元より」との会の方針から地元企業にお願いし、工事期間1年8ヶ月に亘る献身的な努力と卓越した技術により、見事に竣工されたことを心から感謝致しております。建設委員をはじめとした地区委員の方々には格別なお力添えを賜り、また、氏子崇敬者、皆々様の深い御理解を頂き多大なるご奉賛を賜ったお陰と厚く感謝申し上げる次第であります。平成17年7月14日には、支部内神職や氏子関係者約80名が奉仕し、午後8時より遷座祭が斎行され、ご神体は仮殿より真新しい神殿に肅々と“入御”。引き続いて御神体を祭る神事が行われ、最後の宮司一挙の儀で午後10時遷座祭が終了致しました。その後、赤湯温泉ふるさと祭りや恒例の神社諸行事が、新社殿で斎行されております。

歴史と伝統ある鳥帽子山八幡宮が復興再建されたこと、唯々感謝に堪えません。先代敬神講のお力によって造成された4万坪の神苑に、千本桜と共に後世に守り伝え、鳥帽子山の中核として崇敬真心の初心に立ち返り、「敬神崇祖」「観光の拠点」として、地域活性化の大きな輪をより一層広げていきたいと思います。(会報第13号より)

充実の10年のあゆみ

平成18年度

◆船上から花見 ～研修視察旅行「北上展勝地」～

昨年度から復活した研修視察旅行。18年度は、赤湯公民館の地域起こし活動の一環としてご協力をいただき、4月28日に実施いたしました。

研修地は、岩手県北上市の「北上展勝地」。この地は、悠々と流れる北上川の河畔にあり、「日本のさくら名所百選」に数えられている所です。参加者は21名です。

当日は晴天で、絶好のお花見と期待して出発しましたが、この地も開花遅れで蕾の状態でした。それでも駐車場はバスや自家用車であふれ、さすが桜の名所と実感できました。展勝地では、遊覧船に乗って船上からの景観を楽しみました。開花間近の河岸の桜並木、悠々とした流れ、河幅いっぱいに泳ぐ鯉のぼりに歓迎され、小高い丘にある鳥帽子山千本桜とは異なる趣のあるお花見を体験しました。

河畔の約2キロの桜並木は、樹齢80年以上のソメイヨシノで、良く手入れされており、見事な枝振りで存在感のある姿をみせていました。そのほかに「みちのく民族村」「サトウハチロウ記念館」など、桜以外にも楽しめる施設も多く、一大観光地を成していました。

満開の桜には出会えませんでしたが、天気に恵まれすばらしい研修旅行をすることができました。(会報第14号より)



平成19年度

◆南陽市・保存会・地域住民の協働の 【桜管理育成作業】

平成19年度も千本桜の保護育成のため、年間を通して市当局(建設課計画係)、本会、地域住民協働で管理作業が実施されました。

◇春のクリーン作戦(4月6日)

◇春の施肥作業(5月13日)

(有機粒剤240キロ)

◇樹勢回復作業(7月12日)

市建設課と共同作業(重機使用)(油粕80キロ、骨粉40キロ、タバコの葉40キロ、バーク堆肥3,000リットル)

市建設課8名、市内建設業者5名、市内造園業者2名、本会5名参加

◇徒長枝剪定作業(9月30日) 12名参加

◇秋のクリーン作戦(11月4日)

◇秋の施肥作業(11月11日) 消防団第7分団協力、完熟たい肥4トン投与

トラクター使用、15名参加

◇秋の消毒(11月26日)

コスカシバ防除消毒 1,000リットル

◇冬の消毒(平成20年1月8日～9日、2月4日～6日)

ウソ忌避剤ペフラン800グラム入り160缶

市建設課、観光協会、本会

◇2代目滝桜補植(2月7日現地下見、2月10日購入・運搬・移植)

◇春の剪定(3月)

市建設課(テングス病・枯れ枝除去・剪定木80本)

◎今年度もウソの花芽食害予防に力を入れていただきましたが、市建設課には重機を使った大掛かりの樹勢回復作業を進めていただきました。その他の作業では、消防団第七分団の皆さん、赤湯公民館、伊藤造園、平林造園にご協力いただきました。(会報第15号より)

平成20年度

◆親しみを込めて命名 桜木に愛称

鳥帽子山にはおよそ1千本の桜があり、毎年11万人ほどの観桜客が訪れ、桜を愛で春の一時を楽しめます。

桜の観賞の一助にと、本会では今年度園内の桜の木の中から16本を選び、地域の人々から“愛称”を募集しました。応募された愛称をもとに、植えられている場所や樹形なども考慮し、「鳥帽子桜」「湯桜」「康寿ざくら」「観音桜」等の愛称をつけました。愛称とともに、品種、樹高、幹周り等も記した標示板を立て、千本桜観賞の話題性づくりを進めました。(会報第16号より)



◆「偕楽園之碑」案内板設置

鳥帽子山公園造成の由来が記された「偕楽園之碑」の碑文(漢文)解読は、長年の念願でしたが、平成12年秋に本会の有志の方が協力して解読、翌年3月発行の本会会報8号へ掲載されました。

この碑文の内容を広く知ってもらう案内板が長年の懸案でした。今年度、「山形県都市整備協会」の“まちづくり支援賛助金関連事業”的一環として、案内板を設置することができました。先人が多くの困難を克服して協力しあい、壮大な事業を成し遂げた事績を、平易な文章でまとめあげておりま



す。同時に「開園50周年記念歌碑」の案内板も、同じ賛助金の助成で行進しました。

散策マップは5千部を印刷し、南陽市観光協会や赤湯温泉旅館組合等を通して、赤湯を訪れた人に配布予定です。(会報第16号より)

平成21年度

◆愛称木散策マップが完成

20年度事業として鳥帽子山公園にある巨木や名木に愛称をつけて、桜を楽しんでいただこうと愛称木を載せた手作りのマップを作成して来園者に配布したところ大変好評であった。

21年度に最上川フォーラムより助成をいただくことができ、それを基に関係団体等の協力をいただき、カラーの鳥帽子山公園散策マップが完成した。公園の愛称木はもちろんのこと、公園内の施設が一目でわかるように、写真入り紹介、22年の春の来園者に配布する予定である。

併せて、裏面を利用して赤湯地区内の名所等や協力団体の紹介も掲載している。完成したマップは桜のピンクを基調として鮮やかに仕上がり、見る人を鳥帽子山公園に誘ってくれるものとなっている。このマップを手に鳥帽子山公園を散策する人の姿が目に浮かんでくる。



◆全国さくらシンポジウムイン南陽 ～開催記念植樹～

平成21年4月22日～23日の二日間にわたって、南陽市で開催された「2009全国さくらシンポジウムイン南陽」を記念する植樹が、22日に鳥帽子山公園で行われた。(設立20周年記念誌から抜粋)

*別項で詳述します

充実の10年のあゆみ

平成21年度

◆2009全国さくらシンポジウムイン南陽 鳥帽子山千本桜 悠久の想い

平成21年4月22(水)～23日(木)
南陽市民会館(参加者 770名)
南陽市民会館 ほか

◎桜苗木記念植樹(鳥帽子山公園)

◎民謡 県民謡協会様
民謡 多勢久美子様

●開会行事

主催者挨拶

大会会長 南陽市長 塩田秀雄様
(財)日本花の会理事長 安崎暁様

来賓挨拶

山形県知事 吉村美恵子様
南陽市議会議長 伊藤俊美様

●記念講演 「芭蕉の桜」 嵐山光三郎様

●活動報告 (財)日本花の会主任研究員和田博幸様
宮城県柴田町桜の会 桜場政行様
鳥帽子山千本桜保存会 加藤正人様

●パネルディスカッション

コーディネーター 柴田正夫様(保存会会長)
コメンテーター 嵐山光三郎様(講演者)
パネリスト 活動報告者3名様

●次期開催地挨拶 富山県黒部市

●閉会

●交流会 えくぼプラザ(参加者317名)

4月23日(木)現地見学会「古木名木置賜さくら回廊めぐり」

全国さくらシンポジウムを終えて ～これからの鳥帽子山公園～

鳥帽子山千本桜保存会事務局長 加藤 正人

(略) 今年の春、4月22日に、「全国さくらシンポジウムイン南陽」が開催され、全国各地から多くの桜を愛する人たちがここ南陽市を訪れた。開催が決定した昨年から満開の桜のもとでシンポジウムを開催したいと、南陽市をはじめ鳥帽子山千本桜保存会や地域の人々による整備が実を結び、見事な桜で歓迎でき、関わってきたものの一人としてほっと胸をなでおろした。

駅頭の歓迎ののぼりから、会場でのもてなし、そして例年になく見事に咲いた鳥帽子山公園の散り際の桜と、南陽市あげての多くの市民によるあたたかなもてなしに、各方面からたくさん感謝の言葉をいただいたと聞く。これまでにない行政と市民が一体となった全国さくらシンポジウムに高い評価を受けた。

シンポジウムでは、鳥帽子山千本桜保存会を代表し小生が活動報告をさせていただいた。

発表では、今から百数十年前の先人が築いた鳥帽子山公園に思いを馳せ、当時の人々の桜への情熱がまさに今花開いたのではと、鳥帽子山の桜の魅力を全国の桜を愛する人々に伝えることが出来た。そして、私自身も改めて鳥帽子山公園の素晴らしさを再認識する機会となった。(略)

鳥帽子山公園の桜は南陽市民の宝としてこれからも大事に守り育てていくことが、後世に生きる人々への贈物であり、今を生きる私達大人の役割ではないかと考えている。

(「観光南陽」第17号平成21年9月1日発行より抜粋)



平成22年度から平成31年と平成元年度まで

躍進の10年間のあゆみ



躍進の10年のあゆみ

平成22年度

◆設立20周年記念式典

4月22日、総会に引き続き、烏帽子山八幡宮參集殿において、本会の設立20周年記念式典が盛大に挙行されました。本会の歩みと千本桜への思いを綴った記念誌とともに、初めて作った烏帽子山桜マップも配布されました。

柴田正夫会長が本会を代表して、南陽市はじめ多くの団体・機関からの御協力で、20年間活動を続けることができたと感謝の意を表し、塙田秀雄南陽市長と伊藤俊美南陽市議会議長から温かいご祝辞をいただきました。烏帽子山公園の歴史と本会の活動の歩みのスライドが上映され、千本桜の素晴らしさを再認識しました。式典終了後祝賀会へ移行、本会の新たな出発の日となりました。(会報17号)



◆研修旅行

「全国さくらシンポジウムin黒部」に参加

22年4月17日朝6時半、「全国さくらシンポジウムin黒部」の参加者が続々とえくぼプラザ前に集まつきました。しかし、参加者の顔は一様に不安な表情である。それもそのはず、桜が咲こうとするこの時期に信じられないような雪が降り、出発することができるかどうか、危ぶまれる状況だったからです。手配した南陽市の福祉バスはチェーンをはき、予定通り出発。参加者30名を乗せたバスは国道113号線を西進、小国を越える頃によくやくチェーンをはずし、目的地の黒部市宇奈月温泉に向かいました。

例年なく桜の開花が遅れ、新潟を過ぎると、シンポジウムの参加者を歓迎するようにいたるところに桜が咲いていました。

会場の宇奈月国際会館には、昨年度のお礼を兼ねて参加した塙田秀雄南陽市長をはじめ全国各地の桜の愛好家や研究者、保存活動の人々など500名程が集まりました。

記念講演は、富山県出身の作家辺見じゅん氏で、「日本人と桜」と題し、映画にもなった「俺たちと大和」などの作品と桜について、感動的な話を聞くことができました。続いて4つの活動報告が行われましたが、地域や学校、桜を守る人々の桜を愛し桜を守る熱い思いが伝わる報告でした。その中でも特に愛知県新城市の桜の街実行委員長松井さんの「100万本の桜プロジェクト～ふるさと再生の10年計画～」は、務めていた会社を退職し、退職金を資金として桜でふるさと再生に挑み、3年間で千人の市民ボランティアによる街づくり実践の報告で感動させられました。南陽市でも若い力を烏帽子山公園の桜に注ぎ込むことができないものだろうかと考えさせられました。

その日の夜、宇奈月ニューオータニホテルで行われた交流会では、全国各地から参加した桜大好き人間たちとお酒を飲み交わし、桜談議に花を咲かせることができました。(抜粋、会報17号)



千本桜を次世代に引き継ぐために

南陽市建設課長 粟野 清

鳥帽子山千本桜保存会が設立して30周年を迎えたこと、誠におめでとうございます。衷心よりお祝い申し上げます。

貴会におかれましては、常日頃より施肥作業や定期観察会等、千本桜の維持管理にご尽力いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、かねてより鳥帽子山公園周辺の桜の老木化と見晴らし台の景観が問題となっていたことから、千本桜保存会を始め地元の有識者にご協力いただき、平成29年度に「鳥帽子山公園周辺整備計画」を策定致しました。

策定にあたっては、現地調査やワークショップを行う中で、園内にはエドヒガン系の桜が約225本も群生している、国内でも大変特色がある公園であることが分かりました。エドヒガンは自然種であり、千年を超えて巨木となるものも見られ、鳥帽子山のエドヒガンは、これから隆盛を迎えるものと思われます。

三春の滝桜や白鷹の釜の越桜で有名なエドヒガンが、鳥帽子山公園周辺に沢山あることに気づき、改めて先人がソメイヨシノだけでなく、エドヒガンを含めて様々な種類の桜を植栽してくださったことに対する先見の明に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

ソメイヨシノにつきましては、園内の桜の56パーセントを占めており、樹齢60年程度には樹勢のピークを迎えると言われておりますが、毎年、薄紅色の綺麗な花を咲かせておりますので、引き続き、過密植栽箇所については間伐等を行い、日照を確保する等、樹勢の回復に努めてまいります。

また、剪定や消毒剤の散布を行い、病害虫対策を行うとともに、近年問題となっておりますウソの食害対策として鷹匠やドローンを活用し、適切に管理しながら大切に育ててまいりたいと思います。

併せて、見晴らし台と鳥帽子山公園内の景観整備に着手して、千本桜の魅力をより一層引き出していくよう努めてまいりたいと考えております。

歴史ある鳥帽子山千本桜を次世代に引き継ぐために、市としましても精一杯維持管理に努めてまいりますので、会員の皆様のより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

◆活動の記録(抜粋)

- 4月 11日 春のクリーン作戦
17~18日 全国さくらシンポジウム
イン黒部(28名参加)
19日 桜の苗木プレゼント準備
20日 「桜の日」桜苗木プレゼント(30本)
22日 総会・設立20周年記念式典
5月 22日 平和の桜記念植樹
6月 8~9日 置賜さくら会研修旅行
(岐阜県本巣市淡墨桜)
11日 桜木樹勢回復作業
(市建設課・保存会・関係業者)
9月 6日 大鳥居脇枝垂れ桜ロープ設置
10月 3日 定期観察会
11月 7日 定期観察会
14日 施肥作業
*6月16日副会長 伊藤久氏ご逝去
23年
2月22~23日 弘前公園さくらフォーラム
(5名参加)
3月 6日 定期観察会
雪からの枝掘起こし作業
3月 31日 会報17号発行
1月~3月 冬の消毒、春の剪定、古損木伐採
*役員会等は隨時開催



躍進の10年のあゆみ

平成23年度

◆桜守育成事業＝本会初めて＝

置賜地方の各地で桜の植栽が行われ、また、多くの古木の桜が守り育てられており、桜を愛する人々によって保存活動が展開されています。これら桜木の生育と開花は地域の人々の大きな願いでもあります。これらの桜木の保護育成をどう進めれば良いかを学び合い、保存活動を行っている人々との交流を行い、その経験を学び合うことをねらいに、11月5日に鳥帽子山公園を中心とし本会では初めての「桜守育成事業」を開催しました。

当日は、本会や置賜さくら会の会員をはじめ置賜各地で桜の保護活動を行っている12団体の50名が参加し、講演と実技の研修が行われ、充実した事業となりました。

(中略) また、弘前公園の桜を守り育てている弘前市緑地課参事の小林勝氏からは、弘前公園の桜を守ってきた人々の歴史と苦労をお話していただき、後半は鳥帽子山公園の桜木を実際に剪定しながら、より良い剪定の仕方などの実技講習が行われました。お2人の講演や実技を通して、桜の奥深さを実感し、桜にかける思いが一層熱くなりました。

終了後は、講師を囲んでの懇親会が行われ、来年以降の要望も出され、有意義な研修になりました。(抜粋、会報18号)



◆「定期観察会」スタート

雪解けとともに始まる桜の保護育成活動を、1年を通して継続して行うために、会員が定期的に桜を観察することが大切ではないかと、毎月1回の定期観察会がスタートしました。

毎月第1日曜日、早朝の観察会ですが、今年は8回実施することができました。「今年の桜は咲が悪かったね。」と花が終わった新緑の初夏の観察会は徒長枝を剪定し、雪が間近かな秋は枯れ枝を打ち払い翌春の開花を祈りながらの観察がありました。

今年初めての事業で月1回ではありますが、桜を愛する人が一緒に桜木を観察することは、意義深いものと思います。今後も継続していきたいものです。(会報18号)



◆大雪から桜を守ろう！

雪解けの圧力から桜の枝を守ろうと、除雪を行いました。傾斜地の桜は地表近くに枝があり地面を覆うように咲く桜花は見事です。



継続は力なり

樹木医・顧問 三森 和裕

創立30周年おめでとうございます。皆様方の活動が桜にも伝わり平成最後の昨年の鳥帽子山は50年間で最高の花見ができたと喜びましたね。本当に素晴らしいです。記念の原稿で暗い話で恐縮ですが、少し今後についての思いを書かせていただきました。

私見ですが、山形市にある老舗デパート大沼が倒産しました。突然のように見えますが、当方は20年前から予測しておりました。簡単にいえば“街づくり”が“道づくり”になってしまったことです。街づくりは一人ではできません。いろんな人の意見を集約しながら長期的なビジョンで進行していくのです。当然、その時の経済状況などで計画を見直すこともあります。山形市の中心市街地はこの30年間で、旅館、本屋、映画館、喫茶店、菓子店、文具店、食料品店、ついには割烹などをことごとく失いました。街の楽しさ、活力は多様な業種がモザイク状に組み合わさり、切磋琢磨していることです。これは大変だと思っても、衰退し始めた流れを止めるのはそう簡単ではないのです。大型客船がすぐに舵をきれないのと同じかもしれません。まさに、大沼は20年前から寝たきり介護の状態といって過言ではありませんでした。確固とした地域計画、それを支える行政と地域住民の共同作業が必要だったのです。そして、時代を敏感に察知し計画を緩やかに柔軟に修正していくことが必要でした。

鳥帽子山の桜はどうでしょう。確固とした公園造成計画を3年ほど前に地域住民代表の方々も参画して策定しました。今後は、その計画に基づいて確実に作業を進めていくことが重要です。「毎年すばらしい花を咲かせるにはどうすればいいですか?」と花付きの悪い年には良く聞かれます。置賜桜回廊の中でも「久保の桜」は幹が崩れ落ち形が変貌しました。「釜の越桜」は枯れてしましました。特に「釜の越桜」の場合は「大沼」と似ているようにも思えます。もともと樹木にも寿命があります。人間と同じです。調子いい時もあれば、いまいちの時もあるのです。調子いい時も気を緩めることなく慎重に間断なく保全していくことが長生きの秘訣です。鳥帽子山には千本桜保存会というすばらしい会があります。行政と地域が一体となって毎年肥料を施すボランティア活

動を実施していますね。真冬にも鳥害を防ぐために苦労しながらもチャレンジしていますね。これはすばらしいことです。継続こそ力です。的確な計画の下で、方針をこまめに変えることなく、生き生きとした活動は活き活きとした桜の園を形成する原動力です。これからも樹木の保全、更新、四季の移ろいを組み合わせ、いろんな方々が連携しながら鳥帽子山公園を育ててください。わたくしも、その一員として継続のバトンをもって繋いでいきたいと思います。

◆活動の記録(抜粋)

- | | | |
|-----|-----|------------------------------|
| 4月 | 11日 | 定期観察会(雪の枝折れ等処理) |
| | 10日 | 春のクリーン作戦 |
| | 19日 | 桜の苗木プレゼント準備 |
| | 20日 | 桜の苗木プレゼント(30本) |
| | 25日 | 総会(八幡宮参集殿) |
| 5月 | 1日 | 定期観察会(枯枝等の処理) |
| | 18日 | 置賜さくら会会長会(白鷹町) |
| 6月 | 7日 | 定期観察会(ひこばえ、枯枝処理) |
| | 14日 | 置賜さくら会総会(長井市はぎ苑) |
| | 30日 | 桜木樹勢回復作業 |
| 7月 | 1日 | 定期観察会(徒長枝剪定など) |
| | 3日 | 二代目園表示板破損状況の確認 |
| 8月 | 7日 | 定期観察会(徒長枝剪定等) |
| 9月 | 4日 | 定期観察会(ひこばえ、徒長枝剪定) |
| 10月 | 2日 | 定期観察会(徒長枝剪定等) |
| 11月 | 5日 | 桜守育成事業(鳥帽子山公園)
参加12団体、50名 |
| | 6日 | 定期観察会(生育状況観察) |
| | 14日 | 施肥作業 10名 |

24年

- | | | |
|------|-----|-----------------|
| 3月 | 8日 | 置賜さくら会会長会 |
| | 17日 | 雪堀作業(公園北斜面) |
| | 31日 | 会報18号発行 |
| 1~3月 | | 冬の消毒、春の剪定、枯損木伐採 |

*役員会等は随時開催

躍進の10年のあゆみ

平成24年度

◆次代に伝える桜を 第2回桜守育成事業

先人が植栽した桜を守る桜守の育成は、保存活動を行っている団体や会員の大きな課題の1つです。

この課題である桜守を育てるために、昨年に引き続いて「第2回桜守育成事業」を12月1日に南陽市中央公民館で35名の参加者を得て開催しました。

◎講演

「被災地で命を放つ桜を後世に～レンズを通して見た桜～」

講師 写真家 大沼 英樹 氏

◎講義

「よみがえった三春の滝桜 その再生と保存について」

講師 樹木医 鈴木 俊行 氏

被災地の桜の写真を通して、そこに住む人々と桜のかかわりを実感し、千年を超える桜を後世に伝えるために、そこに住む人々が桜とともに歩んいる姿を通して、桜を保存することの意義を学ぶことができ、充実した研修会となりました。(会報19号)



◆置賜さくら会研修旅行

南陽市、長井市、白鷹町の2市1町の8つの桜保存活動団体の会員による置賜さくら会の研修旅行が、6月12～13日に行われ、本会からも六名が参加した。

1日目の全国有数の桜の名所弘前公園の剪定作業の現場で、青森市役所参事で樹木医の小林勝氏より、剪定の実際について現地指導をいただいた。

2日目は、陸前高田市で津波の到達点に1万本の桜を

植えようと運動を進めている「桜ライン311」の計画を聞き、東日本大震災の復興を願う人々の桜への思いを知った。

弘前公園の壮大な桜の植栽と津波の悲惨さを実際に見聞きし、桜の持つ偉大さを実感できた大変有意義な研修となつた。



◆二代目園案内大看板 強風で倒壊・改修

二代目園は、平成2年から8年にかけて全国各地のさくらの名木を植栽して造成されました。平成11年4月には、縦4m・横2mの大看板を初代会長山川章氏から寄贈いただき、多くの来園者に喜ばれてきました。

その大看板が3月の強風で根元から倒れました。長年の風雪に耐えてきた大看板も経年劣化は看板全体に及んでいました。

急遽、桜の開花に合わせるべく、寄贈いただいたA工房さんに依頼して改修再建いたしました。同時に、痛みの激しい二代目園の木製看板や説明板も更新しました。(会報19号を一部変更)

